

分野名	看護の統合と実践	科目名	国際看護	
単位数	1	授業時間数	15	
開講年次	3	開講期間	通年	
担当教員	専任講師			
担当教員名				
目的	国際社会において広い視野で諸外国と協力した看護活動を実施するために必要な基礎的知識を身につける。			
目標	目標 1. 国際看護の特徴や異文化について述べる。 2. 国際看護の基本理念に基づいて看護の国際協力の内容について述べる。 3. 実際におこなわれている国際看護活動について述べる。			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験100%			
使用テキスト・教材	系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学			
履修にあたっての留意点	国際看護というカテゴリーであるが、その基本には貧困や紛争、ジェンダーといった国際保健の視点がなければ理解が及ばないので、公衆衛生・母性看護学・小児看護学で学んだ保健に関する知識を復習してから講義に臨むこと。また、日本に滞在する外国人への医療提供は特別なことではないことを理解するとともに、異文化理解という視点での配慮が理解できるように、文化的背景について各自が調べることを。			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	国際看護の定義 国際協力のしくみ	講義	専任講師	
2.	文化を考慮した看護 在留外国人への看護の実践	講義	専任講師	
3.	グローバルヘルス 人間の安全保障	講義	専任講師	
4.	開発協力と看護・母子の健康(ジェンダー)・感染症	講義	専任講師	
5.	国際看護の実際	講義・課題学習	専任講師	
6.	国際看護の実際(日本に住んでいる外国の方の生活状況)	講義	専任講師	
7.	国際看護の実際(海外での活動の実際)	講義	専任講師	
8.	単位修得試験			
9.				
10.				
11.				
12.				
13.				
14.				
15.				
16.				

分野名	看護の統合と実践	科目名	看護研究の基礎Ⅱ	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	3	開講期間	通年	
担当教員	専任講師			
担当教員名				
目的	事例研究の実際を通して自己の看護観を深める。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の過程を体験する。</li> <li>2. 臨地実習で実施した看護を振り返り、自分の言葉で看護を記述する。</li> <li>3. 千葉県看護学生研究発表会の聴講を通して他者の研究から看護について学ぶ。</li> </ol>			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す レポート内容100%			
使用テキスト・教材	「わかりやすいケーススタディーの進め方」照林社			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期限内にレポートを仕上げ提出できるよう計画的にすすめる。</li> <li>・授業時間を有効に活用し、担当教員から個別指導を受ける。</li> <li>・文献検索・文献学習に継続的に取り組み看護実践の意味づけについて考察する。</li> <li>・論文作成は規定にそってまとめる。</li> <li>・研究発表参加の際は、マナーを守り、興味をもって聴講する。</li> </ul>			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	看護研究計画書の作成 文献検索	個人ワーク	専任講師	
2.	看護研究計画書の作成 文献検索・文献学習	個人ワーク	専任講師	
3.	論文作成	個人ワーク	専任講師	
4.	論文作成	個別指導	専任講師	
5.	論文作成	個別指導	専任講師	
6.	論文作成	個別指導	専任講師	
7.	論文作成	個別指導	専任講師	
8.	論文作成	個別指導	専任講師	
9.	論文作成	個別指導	専任講師	
10.	論文作成	個別指導	専任講師	
11.	論文作成	個別指導	専任講師	
12.	論文作成	個別指導	専任講師	
13.	千葉県看護学生研究発表会聴講(代表者1名発表)	研究発表会聴講	専任講師	
14.	千葉県看護学生研究発表会聴講(代表者1名発表)	研究発表会聴講	専任講師	
15.	千葉県看護学生研究発表会聴講(代表者1名発表)	研究発表会聴講	専任講師	
16.				

分野名	看護の統合と実践	科目名	総合演習	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	3	開講期間	通年	
担当教員	専任講師、兼任講師			
担当教員名				
目的	講義・演習、臨地実習を統合した知識・技術・態度を応用し、臨床現場に適應できる能力を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機器の安全な取り扱いについて述べる。</li> <li>2. 既習の知識・技術・態度を統合して事例患者に必要な日常生活援助技術・診療の補助技術を実施する。</li> <li>3. 複数受け持ちにおける優先順位、安全管理、時間管理を考慮した看護を実施する。</li> <li>4. 事例演習を通して対象把握、安全管理の重要性を述べる。</li> <li>5. 自己の課題を述べる。</li> </ol>			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 課題レポート60% 演習におけるチェックリスト・技術到達度40%			
使用テキスト・教材	系統看護学講座 基礎看護学④「臨床看護総論」医学書院			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題については、既習の知識や文献を活用し、積極的に取り組む。</li> <li>・演習時は身だしなみを整え、私語は慎み、事故が起こらないよう真剣に取り組む。</li> <li>・複数受け持ち演習は、看護師役・患者役・観察役などの役割を責任をもって取り組む。</li> <li>・グループワークは、メンバーの一員であることを自覚し、積極的に参加する。</li> <li>・既習の援助技術については、ナーシングスキルを活用し、事前・事後学習を行うこと。</li> <li>・課題レポート(事前課題や演習後の振り返りなど)については、内容を充分確認し提出期限内に提出する。</li> <li>・科目の学習が臨床総合実習につながることを意識し学習に取り組む。</li> </ul>			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	医療機器の原理と実際①	講義	兼任講師	
2.	医療機器の原理と実際② 実際の医療機器を使用した演習	講義・演習	兼任講師	
3.	演習オリエンテーション① 事前学習・事例学習課題提示	講義	専任講師	
4.	事例学習課題確認・解説 演習オリエンテーション②	講義・グループワーク	専任講師	
5.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師	
6.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師	
7.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師	
8.	診療の補助技術(注射つめ・点滴準備・滴下計算・点滴管理・内服管理)	演習	専任講師	
9.	複数受け持ち演習	演習	専任講師	
10.	複数受け持ち演習	演習	専任講師	
11.	事例患者に必要な援助技術	演習	専任講師	
12.	事例患者に必要な援助技術	演習	専任講師	
13.	事例検討(安全管理)	DVD・グループワーク	専任講師	
14.	事例検討(安全管理)	DVD・グループワーク	専任講師	
15.	多重課題への対応 まとめ	講義・DVD	専任講師	
16.				